

## 第一回 将来企画委員会議事録メモ 2008年9月21日

出席者：鍵、河上、土山、平賀、松井、村上、宮脇、塚本、大谷（委員長）

欠席：小澤（副委員長）

- ・将来企画委員会の目的、位置づけについて合意した。
- ・委員会の今後のスケジュールについて議論し、合意した。合意できる課題については随時報告し、答申の実現を目指す。
- ・委員会での討議内容を8課題設定し、個別に審議をはじめることとした。8課題は以下に示す。
- ・8課題の担当者の提言を紹介し、それらに関する意見交換を行った。その内容は以下のようにまとめられる。

\*\*\*\*\*

### 1) 会員を増加するための方策：

- ・発表者を会員に限るとして、学生の発表者を会員に迎えるなど学生会員を増やすのがよい。そのためには、学生の登録料の割引もありえる。
- ・準会員制度の導入：会費を半額にし、周辺分野の研究者、アマチュアを準会員として迎えるのもよい。
- ・共催などにより、Big Nameに参加してもらい、会員に魅力を与える。準会員制度を検討するのもよい。

### 魅力ある学会するための方策

- ・雑誌が重要。IFを上げることが重要。アジアの中心雑誌となるべき。
- ・Elementsへの加入は不可欠。一人あたり13ドルであるが、JMPSの宣伝、日本の学術活動の紹介は重要、若手にとってElementsは魅力的。GKKの出版回数を減らしてElementsの購読に当てる可能性もあり。Elements上でJMPSはISIジャーナルであり、無料アクセスを宣伝するのは効果的。
- ・Goldschmidt conf.や地球化学会を参考にし、セッションを募集したらどうか。今年の地球化学会は魅力的であった。
- ・積極的に他学会と共催し、セッションコンピナーに他学会員を加えるなど、アクティブな研究者を年会に迎える方策をとるのがよい

### 2) 鉱物科学会の対外方針をどのようにするか。アジア・オセアニアの鉱物科学との連携、世界の鉱物科学への対応、鉱物科学会はどのような国際戦略をもつべきか。IMAへの対応。

- ・アジア鉱物科学を立ち上げるのがよい。IMAの中間年に開催。共同の機関紙の発行。アジア結晶学会、日中高圧学会、AOGSなども存在する。
- ・Elementsに加入するのがよい。日本の大学院生にもためになるであろう。
- ・アジア・オセアニアでは、地質・資源・鉱物科学へのニーズは大きい。資源地質学会や地球化学会との連携すべき。このような連携によって日本、アジアの地球物質科学の中核の学会になるべき。AOGSへの積極的な対応も必要。
- ・IUGSへの対応も重要。IGCやIGCPにも鉱物科学会として関わって行くべき。
- ・アジア・オセアニア連合を設立することは理想。IMAの中間年にアジアオセアニアの学会を開くことはできないか。
- ・JMPSをアジアオセアニア連合加盟学会による共同出版の国際誌に発展させる。

### 3) 鉱物科学をどのような分野を振興すべきか。分科会等を設置すべきか。設置するにはどのよう

な分野がよいのか。

- ・ 分科会よりもむしろ柔軟な部会を設け、財政支援も行うべき。
- ・ 分科会は分野の固定化するならばよくない。分野は自然発生的に生まれてくるものであろう。

4) 若手に魅力的な学会にするための方策は。

アウトリーチ活動として、どのような活動を行うべきか。会員の増加につなげることは可能か。

- ・ 学会から資金や人材の投入が必要。
- ・ 会員に学校教員、アマチュア、小中高校生を迎えるべきかを議論したい。

若手に魅力ある学会にするために。若手のキャリアパス拡大への取り組み：

- ・ キャリアパス：学生，教員どちらの意識も変えるような啓発活動が必要
- ・ 若手に対する魅力：他学会に比べてベテランが元気で，セッションもマンネリ化してるように見える年会を変える。ベテランは純粋な興味で質問するのではなく，分野全体を配慮したようなコメントや若手を encourage するような発言を意識すべき。
- ・ 学会として教科書を作るなどの事業が必要であらう。

5) 鉱物科学会と他学会との関係。例えば，地質学会，資源地質学会，地球化学会，火山学会，惑星科学会その他，JPGU の法人化に対する対応。他学会と共存しつつ会員を増やすための施策はあるか。三鉱シンポジウム

- ・ 鉱物科学会の独自性を保ちつつ、共催するのがよい。
- ・ 今回の地質学会との共同開催については、事後の検証が重要。旅費の節約になった反面、セッションが重なる問題もあった。
- ・ 地質学会のみならず地球化学会、火山学会、資源地質学会などとの共催が重要。今年の地球化学会の年会では、地質学会、鉱物科学会等を共催学会としてセッションのコンピーナーや招待講演者を多数向かえ魅力的であった。同様の方式を鉱物科学会においても取り入れるべき。
- ・ 地球物質関連の次なる学会統合やジャーナルの統合があってもよい。
- ・ アマチュア層の取り込んで準会員などを設け、裾野を広げるべきではないか。
- ・ 地球惑星分野の物質系の中心であるという意識をはっきり持ち、内外に示す（教科書シリーズの発行などもよいと思う）。
- ・ 地球化学会との密接な協力関係をつくれれば、連合の中でも「物質系」としてひとつの軸になる。
- ・ 他学会との年会共催を 2-3 年に一度おこなうなどする。地球化学会との共催は近い将来に可能かもしれない（地球化学会の評議員の 2-3 人の方から 2 年後に関東で共催してはどうかと仰っていただきました）
- ・ 他学会と英文誌を統合して充実させる。

6) 鉱物科学を振興するために学会の会員，連携会員を増やすには，どのように対応するのがよいか。鉱物科学の分野の学会活動の改善。

- ・ 鉱物科学の研究者で大型研究費を獲得している研究者を推薦する。
- ・ 鉱物科学分野の学会活動の改善としては、理科教育問題に対して積極的に取り組み、次世代の人材養成という長期的視野で本分野の振興を行う事が良い。

7) JMPS の振興方策はどのような方策があるか。岩石鉱物科学など鉱物科学会の出版，情報活動は現状でよいか。

・JMPSのインパクトファクターを上げる取り組みが必要。そのためには、レターが御過ぎるようである。

- ・GKKの日本語原著論文は使命を終えたのではないか。
- ・Elementsに学会の基本活動を掲載し、学会活動はレターに変えるのがよい。GKKの年間の発行部数を大幅に減らすこと、GKKを他の日本語学会誌（地質学雑誌、火山）などと統合し発行経費を削減し、Elementsに加入することを検討すべきではないか。
- ・MSA/GCのReviewシリーズのようなものが日本語でほしい。
- ・JMPSはインターネット上で無料で読めるというメリットを国際的に宣伝すべき。これはインパクトファクターの向上に効果的。
- ・会長、各賞の受賞者はreview paperを執筆したり、IMA、IGCの特集号を企画する。
- ・JMPSの場合、ダウンロードしたPDFファイルは文章、図がコピーペーストできないが改善できないか。
- ・JMPSとGKKの二本立ての見直しが必要。
- ・ホームページの充実が必要。会員向けのみならず、火山学会のように「一般向け情報」欄を設け広く広報に努めるべき。英語のページも充実すべき。

今後の方針：

以上、将来企画委員会での議論内容をまとめました。議論において、実現できるものから提言を行うのがよいとの見解で一致した。

具体的実現可能な答申内容として、委員の間で合意できるものは以下である。会長および関係幹事に答申する。

#### **鉱物科学会の年会の実施方法の改善に関する提言：**

将来企画委員会は、年会を魅力あるものとし、若手研究者の入会を促すために、年会の実施方法の改善案として以下のように提案します。関係委員会において検討をお願いいたします。

- ・2008年度の地球化学会の方式に習い、年会において、地質学会、火山学会、地球化学会等と共催する。
- ・共催学会の会員の参加は、鉱物科学会の会員と同様の投稿料、登録料とする。
- ・共催学会の会員を含めて、セッションコンビーナを組織する。セッションはGoldschmidt conf. などになって、魅力的な内容のものを多く作るのがよい。
- ・セッションの講演には、招待講演を積極的に増やし、共催学会から広く招待者を向かえ、質の高いセッションを実施する。
- ・地球化学会の例に従い招待者は、通常の登録料、投稿料、懇親会費を支払ってもらう。

その他の課題について、さらに深く検討する課題を複数抽出し、5月の連合大会での企画委員会までにメール会議を通じて詳細な検討を行う。